

新しい発見、中心、距離、角度

境川中学校 一年三組 市川裕香

世間では、「これは〇〇だ！」と思ったことも、その意見がすべてではない。中心、距離、角度を変えることによって、さまざまなものに見えるのである。



左の図では、とても険しい岩山にマチュピチュの遺跡が映し出されている。だが、この写真を縦にすると、一瞬のうちに、岩山が男性の横顔に見えるのである。一つの写真も、角度を変えることによって、さまざまなものに見えるのである。

このようなことは、日常生活でもあることだ。真つ正面から見たら真つ直ぐに立っているノートパソコンも、横から見ると九〇度になっている。見る角度を変えることで、まったく違う二種類の絵が見えるのである。次に、下の図の場合はどうだろうか。男性が足を組み、猫を抱えて少



しすましている姿が分かる。だが、目を遠ざけてみると、たちまちのうちに、この図はドクロの絵に変わってしまう。同じ図でも見る距離を変えることで、違う絵と受け取れるのである。このことは、絵に限ったことではない。淡く光る美しい月も、近くから見ると、クレーターだらけの岩のようだ。私たちは、ひと目見たときの意見がすべてだと感じてしまう。そこで、ものを見るときには、中心や距離、角度を変えることで、ひと目見たときの意見にしばらくは、そのものの新しい面を発見することが大切である。見方を多少変えることで、まったく違う絵に気づくことができるのである。